

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

北山湿地を守る活動



【3月の作業内容(20日(土)9時~12時 参加20人)】①A湿地北の新見晴台に接続する木道付け替え②カンアオイ周囲の草刈り③H湿地周辺の倒木処理④木道のボルト増し締め



3月の作業は、4月に開かれる観察会に向けて仕上げです♣まず木道の付け替えを最優先とし、男性の多くを投入。無事完成しました♣付け替えた木道は、杭にボルトで固定された桁により支えられています。そこですべての木道のボルトを点検しました♣ギフチョウが舞う時期となりました。ギフチョウは岡崎市より希少野生動植物種に指定され、捕獲し

た場合、罰金が科せられます。そのため、「捕獲禁止」の看板を各所に立てて周知を図るとともに、幼虫の食草であるヒメカンアオイの周りを手入れして、産卵しやすいようにしました。

春の北山湿地を満喫



4月10日(土)9時より北山湿地で、おかざき湿地保護の会が講師を務める自然観察会が開催されました。北山湿地では春・夏・秋に各1回、観察会が開かれており、そのうち春と秋については同会が案内しています。当日は暖かくて風も弱く、絶好の観察日和となりました。参加者は24人。これに会員11人が講師とサポート役として付き添い、駐車場からA湿地までゆっくり歩きながら里山や湿地の自然とふれ合いました。

観察会では、見つけた生きものや植物それぞれの特徴や人間との関わり、どの植物にはどの昆虫が産卵するかといった生態

系における役割などの話題を盛り込み、現物を見ることができない種は図鑑や標本を示しながら



ナンカイワカガミ

ら説明しました。こうした工夫により、参加者の皆さんは会員の説明一つ一つに大いに興味を持ってもらえたようでした。

出発前からギフチョウが姿を見せ、「春の女神」のお出迎えに皆さん大喜び。さらに途中ではギフチョウの卵も確認できました。やなが沢池の水辺では、タ



ベサナエというトンボがヤゴから羽化した様子を多数見ることができ、小さな生命の神秘、たく

くましさにふれて感動した様子でした。A湿地では、美しく咲き乱れるハルリンドウとナンカイワカガミの群落にしばし見とれた後、休憩場所では各種のヤゴやホトケドジョウなどの水生生物の実物を観察しながら、湿地や周囲の自然を保全することの大切さを訴える会員の話にうなづいていました。

多種多様な生きもの



の世界を楽しんだ皆さんが、これらを守るためにどうすればよいか考える良い機会になったと思います。

生き物の豊かな岡崎に



岡崎市は3月28日、図書館交流プラザ・りぶらで「おかざきラウンドテーブル“生きもの豊かなまちづくり”」を開催し、130人の市民が参加しました。

当日は、愛知県生物多様性キャラバンアドバイザーである長谷川明子先生による基調講演「生物多様性と私たちにできること」から始まりました。生物多



おかざき湿地保護の会の名倉正志会長。湿地や里山の生態系を守るために人と自然とが共生する必要性を訴えました。

様性そしてCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)とは何か、種の絶滅

が急加速している現代における生物多様性の重要性と課題、いま私たちが何をすべきかといった内容を、自然界を身体に例えるなどしてわかりやすく解説されました。続くパネルディスカッション「岡崎市の生物多様性

3月18日に第18回湿地サミットが瀬戸市文化センターで開催されました。県内14市町村の関係団体から90人が参加。湿地保護の会からも会長はじめ9人が参加しました。当日は、主催者の瀬戸市より市内の湿地が紹介されたほか、豊田市から「矢並湿地ほか豊田市内湿地のラムサール条約登録に向けて」の活動報告がありました。その後各団体が、希少種の情報公開、湿地の保護・保全・管理、自然環境意識の普及・啓発それぞれの課題について意見交換しました。



4月よりおかざき自然体験の森(八ツ木町)のリーフレットが一新!これまで別々だったリーフレットと散策マップが一体となり、より利用しやすくなりました。さまざまな体験プログラムやボランティア活動、多様な自然環境や森で出会う生き物たちなど紹介されており、コンパクトながら中身は充実。自然体験の森のほか市役所自然共生課、市政情報コーナー、森の総合駅など各所で配布しています。

の現状と課題」では、中日新聞

論説委員の飯尾歩氏が調整役を



珍しいギフチョウの交尾写真(名倉会長撮影)

を務め、パネリストとして鳥川ホタル保存会会長、西三河野鳥の会前会長、おか

岡崎のトンボたち①

ニホンカワトンボ

【大きさ48~64mm、成虫出現期4月~6月】橙赤色の翅が良く目立つ綺麗なカワトンボで、日本特産種です。平地から山地の溪流に生息します。♂は未成熟なうちは青緑色をしています。成熟すると青白い粉で覆われます。また♂には翅の色の有無で橙色翅型、無色翅型と翅脈が橙色の淡橙色翅型の3型があり、このうち橙色翅型のみが縄張りを持ちます。

ハラビロトンボ【大きさ33~40mm、成虫出現期4月~10月】体長に比べ腹部が幅広い独特の体形からその名があります。前から見ると頭部の額上部に青色の金属光沢があります。平地から丘陵地の日当たりがよく、丈の低い植物が茂った浅い池沼、湿地、休耕田などに生息します。未熟なうちは黄色を基調とした体色をしています。♂は成熟すると全身が黒化し、腹部背面に青白い粉を帯びるようになります。

(文と写真/おかざき湿地保護の会 山本英治)



ざき湿地保護の会会長、岡崎養蜂業組合組合長、八丁味噌協同組合理事長が出席。それぞれの活動状況や直面している問題、生物多様性を守るために必要なことなどが話し合われました。特に養蜂や味噌という産業分野においても、自然界のバランスが崩れることにより私たちの食や伝統文化が脅かされることを教えられました。

さまざまなフィールドに接して、五感を通して「心の目」を高め、見えてきた今あるものたちを残すことの大切さを呼びかけて締めくくられました。